



小沢博士の郵政大臣就任を祝して

土木学会正員 参議院議員 小沢久太郎博士が、このたび郵政大臣に就任されたことは、拓務・商工・鉄道・運輸通信の各大臣を歴任された八田嘉明名誉員につぐ土木関係の2人目の大臣としてきわめて注目すべきことでありまして、土木学会はここに衷心よりお慶びを申し上げますとともに同氏の御活躍を心から御祈り申し上げます。

1963年1月8日

社団法人 土木学会

日本学術会議第6期会員に選ばれて

全国区 京都大学教授
石原藤次郎

日本学術会議の第6期会員選挙において、浅学非才の私が当選の栄を得ましたことは、土木学会その他の御推せんと会員各位の御支援の賜物と存じ、深謝の意を表したいと思っております。各位の御指導と御鞭撻のもとに、第2期および第5期会員のときの経験を生かし、学術会議の使命達成に全力をあげ、各位の御期待にそむかないようにするつもりであります。

今回の選挙公報に述べましたように、国民生活の向上、とくに産業の発達のために、科学技術の飛躍的進歩が強調されています。このためには、科学研究および科学技術の基本法の制定、研究体制の整備充実、研究の将来計画の確立、学術文化の国際交流の活発化などが重要であります。学術会議ではこれらについて具体策を着実に研究立案し、それを政府に実行させるように、必要な勧告、声明、その他を行なっていますが、私は会員として、いっそうの努力をつづけたいと思っています。とくに科学技術が国民の福祉、世界の平和、文化の向上に真に寄与するためには、人文科学や社会科学を含め

て総合的に健全な発達をすべきであり、まず科学研究基本法を制定し、それをふまえて科学技術振興法ともいべきものをつくるべきだと主張し、学術会議がその見解を政府に勧告して、速やかに法制化されることを期待していることは、きわめて注目すべきことであります。科学技術が正しく健全に飛躍的な発達をしますことは、われわれの最大の願望であり、上記の基本法と振興法がともに速やかに確立されるようにつとめたいと思いますが、とくに土木工学ないしは土木技術がよりよい人間環境の管理と形成をととおして日本経済の大きい発展に寄与する責任を果たすべきことを強調し、そのための積極的な対策を推進したいと思っています。

学問の研究と人材の養成とを使命とする大学では、学問の自由と大学の自治とともに、とくに理工科系学生の増募と質の向上、奨学金制度の拡充、大学院の育成強化、教職員の増加と待遇改善、研究の費用と施設の充実などがもっとも必要であり、新時代の研究と教育とに遺憾なく対処していかなければなりません。学術会議では、大学の管理運営に関する中央教育審議会の答申について慎



重な検討を加え、大学の自治は教授会をもってその基本的な機関とし、評議会は全学的事項に関して各教授会に代って意志決定をする機関とすべきであるとし、また法規の整備は最小限の原則的事項にとめるべきであるとして、政府に勧告し、大学の人事がその時々政治の動向によって左右されてはならないことを声明しています。このことは、大学がその使命である学問の研究と教育とを遂行するためにきわめて重要でありこの線に沿ってさらに努力をしたいと思っております。われわれ土木関係者としては、新しい生産技術が要求せられ、近代産業に適応した社会環境の整備にせまられている最近の情勢に関連して、大学における土木工学ないしは土木技術の研究と教育とのあ

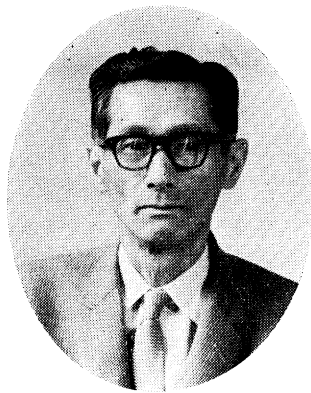
り方を根本的に検討し、新時代に即応した体制を確立していかなければならないと思います。

全国の科学者、技術者から選挙された会員をもって構成されている学術会議は、科学を行政、産業、国民生活などに反映せしめるために、きわめて重大な使命をもっており、真剣にとりあげて研究立案し、政府に勧告答申すべき問題が少なくありませんが、上記は私がとくに関心をもっている問題を明らかにし、これからいっそうの努力をつづける心がまえを述べたものであります。各位の御指導と御鞭撻を重ねてお願いしたいと思います。 1963.1.10・記

全国区 東京大学教授 最上 武雄

学術会議の議員になった感想をということですが、まだ当選通知はもらったのみで学術会議に議員として行ってもおりませんので、ちゃんとしたことは言い得ない状態です。教室からの要請によって立候補した以上多くの方々のご支援によって必要票数を得られたことは大変ありがたいことです。このことは感謝の意をいくら表わしても表わしきれないと思っております。私は数年来健康が十分とはいえず、教室から話があったときもかなり考えたものでした。その結果決心したのですから自分の努力で何とかなるまではやり抜くつもりです。ただ一人で力んで見たところで仕方がないことですので、万事状況を見てと思っております。

この選挙の行なわれる前、何人かの人が新聞に学術会議について書いていました。科学技術庁を初めとして多くの科学行政機関が生れている現在、学術会議の存在理由が薄れてきたといわれておりますが、それにもかかわらず、やはり学術会議独自の受持分野はあり、しかも重要であるというのがそれらの論旨の重点で



あったと思います。学術会議には各専門からの代表がでているのですから科学や技術に対しての共通の問題についての意見をまとめて行くものだと思います。それぞれの専門からでる人たちは所属する専門分野における意見を述べる義務があると同時に、利益代表的見地を離れて日本全体、日本の学術全体を考えて行かなくてはならないと考えています。その意味で議員としての責任は相当に重大であると思っております。

私は長く大学にいて学生の養成、研究その他にたずさわってきましたが、これだけでもその責任を従来はたし得たかどうかは省みると自信はありません。ただ自から可能な範囲で努力し、常に自省してきたことはいいうろと思っております。議員となっても、これと変わった態度はとり得ないでありましょう。

学術会議は、日本の学術上の外国への窓口としての役目も持っています。この発達した世界においては世界的な見地で物事を考えなければならないことがますます多くなっています。学術については、ことさらにそうであって、日本だけに閉じこもってられるわけがありません。昔のように知識を外国からの輸入のみに頼るようなことをしては、とうてい日本学術の進歩は望めませんし、またそれは世界学術の進歩にも役立ちません。現在、新聞雑誌では貿易の自由化するものが大きくなり

上げられ、そのために国内産業の力を増して行くことが急務であるといわれています。このようなことは世間一般の人たちには、良く理解できることらしく、そして政府においても対応した政策をとっているようです。しかし学術においては昔から今に至るまで自由化が行なわれておりこれに従事している人たちが、いわば中小企業またはそれ以下の規模において、苦心惨胆していることに気がついて人は案外少ないのではないのでしょうか。学者諸兄の中でさえ、いまだに輸入品ばかりを買っている人もおられるのではないのでしょうか。私はケチな愛国心からではなく、何とか日本の学術全体が、おごりではなく、プライドを持ち世界と交わっていくことを願ってやまないのです。

このような希望が学術会議を通じて、どの程度まで押し進められるか今の私には不明ではありますが、若干の希望は持っております。

1962.12.29・記

地方区 北海道大学教授 真井 耕象

私はこのたび日本学術会議第6期会員選挙にあたり、土木学会、土質工学会、その他の推挙により、非才をかえりみず北海道地区第5部から立候補いたしましたところ、はからずも当選の栄を担うことになりました。実は私自身立候補など夢想だにせず、締切り間近になって事後諒承したような次第で、まことに無責任のようで恐縮しています。それにもかかわらず各方面から多大の支援をうけて、今日の栄冠を得ましたことは、私にとって全く思いがけぬことで、身にあまる光栄と衷心感謝感激するとともに、責任のきわめて重大なことを痛感している次第であります。

学術会議の使命や任務について、特に検討したわけでもなく、会員と

しては全くの一年生ですから、これから何事につけ一生懸命勉強して、皆さんの期待にそうよう、私の最後の奉公として、ど馬にむちうち最善をつくしたいと思っております。皆さんの指導と鞭撻を切にお願い申し上げます。

学術会議のあり方やこれまでの行き方について最近いろいろと批判され、一部には斜陽的存在とも評されているようです。大事な会議をいたずらに議論のために空転させることなど、反省を要するものが多々あるでしょうが、私は学後会議本来の使命をよく自覚し尊重して、会員相互の良識と協力によって、着実に建設的成果をあげるよう努力してゆくべきだろうと考えます。

そこであらためて学術会議に関する法規を披見してみました。それによると、学術会議は科学が文化国家の基礎であるという確信に立って、科学者の総意のもとに、(1) わが国の平和的復興、人類社会の福祉に貢献し、(2) 世界の学界と提携して学術の進歩に寄与することを使命として設立され、したがって、わが国の科学者の代表機関として国際団体にも加入し、(1) 科学の向上発達をはかるとともに、(2) 行政、産業および国民生活に科学を反映浸透させることを目的としています。

これらの重大な使命や目的を達成するために、学術会議は総理大臣の所轄のもとに、(1) 科学に関する重要事項を審議してその実現をはかり(2) 科学に関する研究の連絡をはかってその能率を向上させ、(3) 科学に関する政府の諮問に答え、また政府に勧告することがおもな職務となっています。政府からの諮問事項としては、(1) 科学に関する研究試験の助成、そのほか科学の振興をはかるとともに政府の支出する交付金、補助金などの予算とその配分、(2) 政府所管の研究所、試験所および委託研究費などに関する予算編成方針、

(3) 特に専門科学者の検討を要する重要施設などがあげられ、また政府への勧告事項としては、(1) 科学の振興および技術の発達に関する方策、(2) 科学に関する研究成果の活用に関する方策、(3) 科学研究者の養成に関する方策、(4) 科学を行政に反映させる方策、(5) 科学を産業および国民生活に浸透させる方策などの重要事項が掲げられています。

人文科学は3部門、自然科学は4部門の7専門部会に分かれ、会員数は各部門30名、総数210名であり総会、部会、連合部会が開催され、また運営審議会と各種委員会が結成されて、それぞれ活動する機構になっております。

学術会議とは別に、科学技術の総合的進展に資するため、総理大臣の最高諮問機関として、「科学技術会議」が設置されています。総理大臣を議長として、蔵相、文相、経済企画庁長官、科学技術庁長官、学術会議会長および科学技術にすぐれた識見を有するもの5名、計10名の議員で構成され、(1) 科学技術の一般に関する基本的かつ総合的な政策の樹立に関する事項、(2) 科学技術に関する長期的かつ総合的な研究目標の設定に関する事項、(3) 前項の研究目標を達成するために必要な研究で特に重要なものの推進方策の基本の策定に関する事項、(4) 学術会議への諮問および学術会議の答申または勧告に関することのうち重要なものがその諮問事項となっております。

このように、学術会議とは不可分の関連がありますので、学術会議内に特に科学技術会議連絡部会を設けてこれに対処させるようにしております。

なお、最近の新聞紙上で報ずるところによれば、文部省は学術研究体制の画期的発展をはかるとともに、文相の最高ブレーンとして「学術振興会議」設置の構想が伝えられており、その内容を見ますと、(1) 国公私立



大学を中心とした基礎研究の研究体制はどうあるべきか、(2) 学術に対する社会要請と即ち即応させるか、(3) 学術会議の対政府勧告の具体化など、学術行政の基本問題と取組み政策の立案実施にも参与させようとするものようであります。そして総理大臣を議長として7名のメンバーより構成され、(1) 計画、(2) 研究体制、(3) 人材養成、(4) 研究費(5) 情報資料集収、の5専門部会を設置する構想であります。またこれと同時に「日本学術振興会」を財団法人より特殊法人に切りかえ、「日米科学会同委員会」の勧告にもとづいて太平洋調査、ガン研究などの国家的国際的な学術振興事業の主体として研究の実施にあたらせようとする企画であります。

これら一連の機関は学術会議と重要な関連をもっておりますので、その趣旨や性格についても十分認識した上で、学術会議本来の使命達成に努力することが肝要であると考えられます。いうまでもなく国民生活の安定向上の途は、科学技術の振興に負うところきわめて大であり、そして、これを実現する方策いかに問題であると思います。私は残念ながら私の貧弱な抱負をここに臆面もなく披露する勇氣はありませんが、せめて微力ながら皆さんの意図されることを体し、誠心誠意責任の遂行に精進努力したいと念願して筆をおくことにいたします。1962.12.24・記